

呂 怡屏

平成 26 年度 文化科学研究科学生派遣事業 研究成果レポート

1. 事業実施の目的:台湾における博物館の民族学収蔵品の活用実態、および博物館とソースコミュニティの協働関係について先行研究を調査する。
2. 実施場所:台湾高雄市・台南市・台中市・台北市
3. 実施期日:平成 26 年 8 月 6 日(水)から 9 月 10 日(水)
4. 成果報告

●事業の概要

博士論文を執筆するために、台湾における博物館の民族学収蔵品の活用実態、および博物館とソースコミュニティの協働関係について先行研究を調査する。この度の調査内容は、文献の調査と研究事例の予備調査である。

【研究背景】

近年の博物館人類学の研究が明らかにしたのは、収集の実践はひとつの政治過程であり、その後には権力支配、社会構造及び価値観が複雑にからまりあっているということである。民族学の収蔵品を収集、選択する際には、博物館や人類学者はその権威の所在を見直し、検討することを要求される。

この検討に従って、博物館は、かつての一方的な収集、展示から、相方向的な協働へ進むことを模索し始めた。さらに、博物館とソースコミュニティとの協働により、収蔵品を共有することから、文化資源とすることを目指している。多民族共生の台湾における博物館もこの課題に直面している。

そのような状況で、本研究は、台湾におけるシラヤ族を研究対象にして、博物館の収蔵品を活用する際に、シラヤ族のアイデンティティーを構築するときに与える影響、および構築のメカニズムを解明することを目指す。

【実施内容】

本事業で報告者は、台湾の台湾大学図書館において、小林村に住んでいたシラヤ族の中の大武壠(タブロン)人に関する八八水害以後の生活復旧に関する資料を調べた。また台湾の高雄と台南における博物館とソースコミュニティとの連携の概況、事例研究に関する資料の収集を行った。

- (1) 高雄市の科学工芸博物館、日光小林村、五里埔小林村、小林平埔族群文物館

最初に訪れたのは高雄にある小林村である。2009 年の台風のせいで、小林村は土砂に覆いかぶされて、大きな被害を被った。災害後、もと小林村に住んでいた人々は日光小林、五里埔小林と小愛小林の三つのところに住んでいる。

その災害を記念した小林平埔族群博物館が設立され、常設展示が今年 8 月にオープンした。博物館の展示企画を担当した高雄市歴史博物館のキュレーターの話によると、オープンに際しては小林の人の生活、および生業と宗教に関する物を展示することによって、昔小林村に住んでいた人々はもう一度小林人としての尊厳を取り戻したいという思いを抱いたという。それゆえ、リニューアルしたばかりの展示は、再出発の象徴とも言える。なお、高雄市の科学工芸博物館で 8 月 8 日にオープンした莫拉克台風と災害に関する常設展示も視察した。展示の内容は台風と災害救助についての科学的な解説が中心であった。

(2) 台南市の左鎮区の拔馬教会、拔馬博物館、台南市自然史教育館、木柵教会、シラヤ文化会館、頭社、北頭洋、岡林

次に台南の曾文溪南部の左鎮区を訪問した。左鎮ではキリスト教を信仰しているシラヤ人が多い。訪れた拔馬教会の隣に拔馬博物館がある。1997 年に拔馬博物館が設立された時には、台湾でのキリスト教の宣教とシラヤ文化概説を展示した。2010 年に教会設置 140 周年を記念して、国立台湾歴史博物館と協同し、博物館が収蔵した拔馬に関する古い写真と文物を用いて展示内容をリニューアルした。最近、人手不足のため、拔馬博物館はしばらく休館した。

左鎮区と周辺でシラヤ文化を展示している地方の展示施設も訪れた。例えば、木柵教会の陳列室、台南市自然史教育館、シラヤ文化会館、新港社地方文化館。今回のメイン調査地ではなく他のシラヤ文化復興に務めているコミュニティー—口埤教会(緑谷シラヤ)、頭社、北頭洋、岡林などの地域にも立ち寄った。

(3) 札哈木文化會館、台南市原住民博物館

札哈木文化會館と台南市原住民博物館はともに台湾原住民族委員会が設置した原住民族博物館である。ツオ族の口伝神話によると、ツオ族の人たちは昔台南の安平地域に住んでいた。そのため札哈木文化會館の広場にツオ族の男子会所が建てられた。建築は二階建てで、壁面にパイワン族、ルカイ族とタオ族の模様を描いている。台南市原住民博物館は台南の永康文化センターの 5 階にある。展示室に入る前の廊下の外にはパイワン族の木彫作品がたくさん並んでいる。二つの展示室は同じく教室のような空間である。

台南には政府に認められた原住民族がないので、両機関の展示室では定期的に特別展示が行われる。この夏休みに催した共同展示は台南に嫁入りした原住民族の女性の暮らしであった。女性が新しい地域に移住し、また異なる文化と出会った時に、どのように生きていくかという物語であった。

(4) 東河里吉貝要

三つめの調査地は台南において更に北にある吉貝要である。大部分の村民は清水祖師爺廟に清水祖師爺を祀っているとともに、伝統宗教を代表する公廨にも祀りに行く。吉貝要では住宅が集中しているため、村民の交流がより顕著にみえる。日頃、年配の人たちは社区活動中心(コミュニティーセンター)や大きい木の下で、または廟の前の広場に集まって談笑する。壮年者と若い人たちは出稼ぎあるいは農業をしている。子供の人数は多くない。吉貝要小学校の児童は合計 40 人くらいである。

吉貝要における文化復興の事業としては、伝統の夜祭のほか、国立台湾歴史博物館と日本の博物館に収蔵されたモノを参考にして古い刺繍を再現する事業が始まった。また、失われたシラヤ族語の復原については、東京外国語大学に所蔵された浅井恵倫と小川尚義が録音した音声資料と対照しながら、復原の作業を進めている。文化復興の活動に参加する人たちには学生も大人もいる。

(5)

台中市の国立自然科学博物館、台北市の中央研究院民族学研究所の平埔族展示と国立台湾大学図書館

将来研究可能な対象として、台中にある国立自然科学博物館の展示組に所属するキュレーターにその研究と訪問の可能性を前もって伺った。さらに、台北にある中央研究院民族学研究所に付属する民族学博物館の平埔族展示も見学を訪れた。その民族学博物館の原住民族展示は族ごとに展示する。平埔族の展示内容は多くなく、土地売買に関する契約と伝統宗教を取り上げている。

国立台湾大学図書館には台湾原住民族に関する資料を集めて、原住民図書室が設置された。同図書室において、今回予備調査を行った三つの村に関する研究資料を複写した。テーマは○1 平埔族の国家認定に関する歴史的、および現代における発展の文書、○2 八八水害以後の生活復旧についての資料、○3 台湾原住民族文化復興の事例に関する文書である。

●本事業の実施によって得られた成果

※本事業を実施することによって、どのような成果が得られたか、博士論文研究にとってどのような意味があったか等(研究発表の可能性を含む)についてレポートしてください。

本事業の実施によって、地域ごとに次のような成果が得られた。

(1) 高雄にある五里埔小林村の小林平埔族群文物館は、キュレーター自身が調査で集めた資料と現地の人々の意見をまとめて、一年を経て今年やっと開館した。実際に現地へ行って聞き取り調査をして、三つに分かれた村民と博物館キュレーター、それに学者の間では博物館の役割に対する期待に相違点があることが分かった。それゆえ、このコミュニティーにおかれている博物館は、将来村民との関わりをどのように維持していくのかという課題を抱えている。

(2) 台南市の東部における平原と山域が現在平埔族のシラヤ族が生活している地域である。今回

の予備調査によって、各コミュニティの文化事務を担当する人が進めている多様な文化活動、あるいは博物館への考え方を聞き取りしたことから、各コミュニティと博物館との連携状況を把握しただけでなく、シラヤ族の文化復興の現場に関する重要な一次資料を得た。

(3) 今回収集された文献資料によって、平埔族の国家認定に関する歴史的経緯と、現代における展開を把握した。また、災害後のいくつかの生活復旧事例と文化復興事業に関する情報も収集した。

この度の調査によって得られた資料により、これからの博士論文に執筆あたっての基礎を確立することができた。その成果は、学内外での研究発表で公開するとともに、博物館研究に関する「MUSE UM 2015」国際シンポジウムで発表する予定である。

● 本事業について

※文化科学研究科学生派遣事業に参加した感想や、専攻を超えた教育研究活動の推進に関するご意見等、ご自由にお書きください。

文化科学研究科学生派遣事業により、博士論文のテーマに関する海外での調査を行ううえで、必要な資金の提供を受けた。これにより、博士論文執筆の基礎データを入手することができたので、とても有益であると思う。